

# 第 52 回 幹 事 会

平成 20 年 3 月 6 日

日 本 学 術 会 議

# 配布資料

資料 1 議事次第

資料 2 出席者一覧

資料 3 非公開審議事項

資料 7 第51回議事要旨

資料 8 諸報告

資料 9 審議事項

参考 1 今後の予定

参考 2 サイエンスカフェ案内

日 時 平成20年3月6日(木) 14:00～

議 題

I 非公開議事項

1 委員会関係

提案1 国際委員会における分科会、小分科会の設置及び委員の決定等

提案2 分野別委員会における分科会の委員の決定等

2 外部委員候補者の推薦

提案3 外部委員候補者の推薦

3 その他

II 前回幹事会以降の諸報告

III 審議事項

1 規則の改正

提案6 日本学術会議細則の一部を改正する案

2 国際会議関係

提案7 G8学術会議の開催

提案8 平成20年度代表派遣実施計画

提案9 平成20年度代表派遣(平成20年4月～6月分)

3 シンポジウム等

提案10 「医療系薬学の学術と教育：健康社会の実現に向けた先進薬物治療の展開を目指して」(シンポジウム)

提案11 「ビスホスホネート治療による顎骨壊死の現状」(シンポジウム)

提案12 「「教育・研究環境のあるべき姿」分子研研究会」(シンポジウム)

提案13 原子力総合シンポジウム2008

提案14 「地球温暖化時代に森林木材が果たすべき役割」(シンポジウム)

提案15 「心と身体から教育を考える」(シンポジウム)

提案16 「高校教育における時間と空間認識の統合—世界史未履修問題をどう解決するか—」(シンポジウム)

提案17 「Fifty Years after IGY – Modern Technology and Earth and Solar Sciences – (IGYから50年 – 最新情報技術と地球・太陽科学-)」(シンポジウム)

4 後援

提案18 国内会議

IV その他

### 第 5 2 回 幹事会（3 月 6 日）出席者一覧

|     |         |
|-----|---------|
| 会 長 | 金 澤 一 郎 |
| 副会長 | 鈴 村 興太郎 |
| 副会長 | 土 居 範 久 |

|     |     |           |
|-----|-----|-----------|
| 第一部 | 部長  | 広 渡 清 吾   |
|     | 副部長 | 佐 藤 学     |
|     | 幹事  | 江 原 由 美 子 |
|     | 幹事  | 小 林 良 彰   |

|     |     |         |
|-----|-----|---------|
| 第二部 | 副部長 | 北 島 政 樹 |
|     | 幹事  | 山 本 雅   |
|     | 幹事  | 鷲 谷 いづみ |

|     |     |         |
|-----|-----|---------|
| 第三部 | 部長  | 海 部 宣 男 |
|     | 副部長 | 小 林 敏 雄 |
|     | 幹事  | 大 垣 眞一郎 |

---

|       |         |
|-------|---------|
| 事務局局長 | 谷 口 隆 司 |
|-------|---------|

# 諸 報 告

## 第 1 前回幹事会以降の経過報告

- |            |      |
|------------|------|
| 1 会長等出席行事  | P. 1 |
| 2 審議付託等    | P. 1 |
| 3 賞等の推薦    | P. 1 |
| 4 委員会委員の辞任 | P. 1 |

## 第 2 各部・各委員会等報告

- |                  |      |
|------------------|------|
| 1 機能別委員会の開催とその議題 | P. 2 |
| 2 分野別委員会の開催とその議題 | P. 3 |
| 3 課題別委員会の開催とその議題 | P. 6 |
| 4 総合科学技術会議報告     | P. 7 |
| 5 人事             | P. 7 |
| 6 逝去             | P. 8 |

## 1 前回幹事会以降の経過報告

### 1 会長等出席行事

| 月 日          | 行 事 等                                          | 対 応 者      |
|--------------|------------------------------------------------|------------|
| 2 月 19 日 (火) | 〔表敬訪問・意見交換〕<br>サラ P. オットー 博士 (ブリティッシュ・コロンビア大学) | 金澤会長、村田参事官 |
| 2 月 21 日 (木) | 総合科学技術会議 新旧議員懇談会                               | 金澤会長       |
| 2 月 27 日 (水) | 英国大使主催 晩餐会                                     | 金澤会長       |
| 3 月 1 日 (土)  | 九州・沖縄地区会議 科学者懇談会、学術講演会 (那覇)                    | 金澤会長、綱木次長  |

### 2 審議付託等

| 件 名                                          | 申 請 者                        | 審議・付託先     |
|----------------------------------------------|------------------------------|------------|
| シンポジウム イノベーション創出と数学研究―諸科学・産業技術の「知の深み」を目指して―  | 国立大学法人北海道大学大学院理学研究院長         | 第三部        |
| Calestous Juma 教授 特別講演会～科学技術が支えるグローバル社会の持続性～ | 東京大学 21 世紀 COE プログラム拠点リーダー   | 第二部<br>第三部 |
| 日本土壌微生物学会シンポジウム                              | 日本土壌微生物学会会長                  | 第二部        |
| 「第 20 回国際生物学オリンピック」                          | 国際生物学オリンピック<br>2009 組織委員会委員長 | 第二部        |

### 3 賞等の推薦

| 件 名           | 照会先 | 備 考 |
|---------------|-----|-----|
| 2008 BALZAN 賞 | 各部  | 見送り |
| アストゥリアス皇太子賞   | 各部  | 見送り |
| 井上春成賞         | 各部  | 見送り |

### 4 委員会委員の辞任

地球惑星科学委員会国際対応分科会 STPP 小委員会 小島 正宣 (平成 19 年 12 月 21 日付)

## 第2. 各部・各委員会報告

### 1 機能別委員会の開催とその議題

#### (1) 選考委員会会員候補者選考実務分科会

人文・社会科学分野会員候補者選考実務小分科会（第3回）（2月18日）

- ①会員候補者の選考
- ②その他

#### (2) 選考委員会会員候補者選考実務分科会

生命科学分野会員候補者選考実務小分科会（第3回）（2月20日）

- ①会員候補者の選考
- ②その他

#### (3) 選考委員会会員候補者選考実務分科会（第2回）（2月22日）

- ①会員候補者の選考
- ②その他

#### (4) 科学者委員会

○ 平成19年度日本学術会議主催公開講演会「宇宙と生命、そして人間を考える－人類の未来のために－」を2月16日（土）に日本学術会議講堂にて開催した。

#### (5) 男女共同参画分科会（第13回）2月29日（金）

- ①アンケート調査結果の分析
- ②海外における男女共同参画の取組状況
- ③最終報告書
- ④その他

#### (6) 学協会の公益機能検討等小分科会拡大役員会議（第1回）（2月18日）

- ①公益認定等委員会に対する要望・質問等について
- ②学協会へのアンケートについて

#### (7) 学協会の公益機能検討等小分科会（第3回）（2月21日）

- ①公益認定等委員会との意見交換
- ②取りまとめの方向性について
- ③今後の予定等

#### (8) 国際委員会（第19回）（2月26日）

- ①H20代表派遣実施計画（提案）
- ②持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2008（報告）

- ③国際戦略立案分科会（報告）
- ④IAC 理事会・IAP 執行委員会（報告）
- ⑤G8 学術会議（報告）
- ⑥その他

## 2 分野別委員会の開催とその議題

### 第一部担当

- (1) 地域研究委員会 人類学分科会（第11回）（2月23日）
  - ①多文化共生について ②今後の人類学分科会活動について ③その他
- (2) 史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会（第7回）（2月27日）
  - ①桜井委員の報告 ②その他
- (3) 社会学委員会 社会福祉学分科会（第9回）（2月29日）
  - ①シンポジウムについて ②対外報告について ③その他
- (4) 史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会（第6回）（3月3日）
  - ①独仏共通教科書成立の経緯について ②今後の分科会活動について
  - ③その他
- (5) 地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同  
IHDP分科会（第9回）（3月4日）
  - ①AASSREC 関連ワークショップの説明 ②IHDP 分科会12月22日  
シンポジウムの報告 ③今年度の活動 ④次年度（20年9月まで）の活動
  - ⑤次期の委員会構成等に関する意見交換 ⑥その他
- (6) 地域研究委員会 人文・経済地理と地域教育（地理教育を含む）分科会  
（第10回）（3月4日）
  - ①シンポジウム（GISを中心にした地理教育について）の開催について
  - ②シンポジウム（人口減少社会を地域の文脈で考える（仮題））の開催について
  - ③高校地歴科分科会の審議内容について ④その他
- (7) 史学委員会 科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会  
（第1回）（3月4日）
  - ①役員の選出について ②今後の分科会運営について ③その他

### 第二部担当

- (1) 基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 遺伝医学分科会（第2回）（2月14日）
  - ①今後の活動について ②その他



(2) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 遺伝学分科会 (第3回) (2月14日)

①分科会からの提言について ②提言のまとめ方について ③その他

(3) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 生物工学分科会 (第1回) (2月15日)

①分科会役員の選出 ②生物工学の現状と展望についての意見交換 ③その他

(4) 農学基礎委員会・生産農学委員会合同 IUNS分科会 (第3回) (2月16日)

①IUNS対応について ②アジア栄養学会会議・FANS関係について

③その他

(5) 生産農学委員会 水産学分科会 (第3回) (2月18日)

①水産実験所要望書について ②日本水産学会との公開シンポジウム主催について ③今後の活動について ④その他

(6) 基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 基礎・臨床医学研究グランドデザイン検討分科会  
(第4回) (2月26日)

①対外報告(提言)について ②その他

(7) 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会 (第9回) (2月26日)

①健康・スポーツ科学分科会の対外報告の作成について

【乳幼児から発育完了期までの子どもの身体運動ガイドラインの策定について】

1) 高橋委員からの報告 2) 対外報告書の内容と原稿執筆分担について

②その他

(8) 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同 パブリックヘルス科学分科会  
(第6回) (2月29日)

①第20期パブリックヘルス科学分科会の対外報告の準備 ②公衆衛生関連

「学協会」連携(連合)組織の打ち上げについて ③3月開催の第78回

日本衛生学会総会における「公衆衛生大学院問題シンポジウム」の準備状況

④「健康食品問題」シンポジウム ⑤アジア諸国との公衆衛生活動協力の

推薦について ⑥その他

(9) 健康・生活科学委員会 (第8回) (2月29日)

①分科会の活動状況(平成19年年7月以降)

②分科会の対外報告書の親委員会審議について ③第20期健康・生活科学委員会のまとめについて ④第二部(生命科学)における「健康・生活科学」の位置づけについて ⑤その他

(10) **臨床医学委員会 老化分科会** (第2回) (3月1日)

- ①シンポジウム「高齢者の健康増進のための学際的アプローチ」について
- ②その他

(11) **健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会** (第7回) (3月1日)

- ①シンポジウム「高齢者の健康増進のための学際的アプローチ」の開催について
- ②その他

(12) **基礎医学委員会 生体医工学分科会** (第4回) (3月3日)

- ①生体医工学フォーラム「医工学先端研究と教育の創造的結合」について
- ②その他

(13) **健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会**

(第13回) (3月4日)

- ①要望「脱タバコ社会の実現に向けて」について
- ②その他

**第三部担当**

(1) **総合工学委員会 総合工学企画分科会** (第5回) (2月15日)

- ①総合工学委員会関係の各分科会の報告
- ②若手・人材育成問題検討分科会報告
- ③意思の表出について
  - 1) 意思の表出方法のあり方
  - 2) 各分科会の意思の表出(対外報告等)の準備状況
- ④会員及び連携会員の推薦及び選考について
- ⑤「学術の動向7月号」総合工学小特集案について
- ⑥その他

(2) **環境学委員会 自然環境保全再生分科会** (第9回) (2月19日)

- ①自然再生に関する政策について
- ②その他

(3) **総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 W F E O分科会**

(第7回) (2月25日)

- ①W F E Oニューデリー総会報告
- ②Disaster Risk Management Task Group のTORについて
- ③代表派遣について
- ④JFES との連携について
- ⑤その他

(4) **土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会 拡大役員会**

(第2回) (2月26日)

- ①シンポジウムの準備状況について
- ②報告書(案)の作成について
- ③今後のスケジュール
- ④その他

(5) **心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会** (第4回) (2月27日)

①報告書（案）の全体構成の検討 ②モニタリング調査について ③その他

(6) 総合工学委員会 I C O分科会（第5回）（2月28日）

①経過報告 ②I C O－21総会への対応：副会長候補者の選定  
③我が国の光関係研究の活性化に向けた本分科会の対応 ④その他

(7) 環境学委員会・数理科学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・  
情報学委員会・化学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・電気電子  
工学委員会・土木工学・建築学委員会・材料工学委員会合同 若手・人材育成  
問題検討分科会（第6回）（2月29日）

①報告書（案）の検討 ②今後のスケジュール ③その他

(8) 情報学委員会 セキュリティ・ディペンダビリティ分科会（第4回）（2月29日）

①対外報告（提言）について ②その他

(9) 地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会（第8回）（3月1日）

①報告－学術会議の動向について ②地球惑星科学の現状と将来について  
③その他

(10) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・  
リスク検討分科会（第5回）（3月3日）

①小委員会の活動報告 ②分科会としてのアウトプットについて ③その他

(11) 基礎医学委員会・総合工学委員会合同 放射能・放射線の利用に伴う課題  
検討分科会（第2回）（3月3日）

①報告書の検討 ②その他

(12) 数理科学委員会 数理統計学分科会（第4回）（3月5日）

①統計教育研究に関するアンケート調査に基づく提言の原案について  
②連携会員の推薦について ③その他

(13) 地球惑星科学委員会（第19回）（3月6日）

①各分科会の活動報告 ②シンポジウム『地球環境の変動－科学の目で見る  
その面白さ』について ③地球惑星科学の現状と将来について ④その他

### 3 課題別委員会の開催とその議題

(1) 生殖補助医療の在り方検討委員会 拡大役員会（第2回）（2月17日）

①報告書（案）について ②その他

(2) 生殖補助医療の在り方検討委員会 (第16回) (2月19日)

①報告書(案)について ②その他

(3) 地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会

(第4回) (2月19日)

①シンポジウムについて ②報告書の論点整理 ③各WG別の検討

④各WG別の検討結果の報告 ⑤その他

(4) 生殖補助医療の在り方検討委員会 拡大役員会 (第3回) (2月22日)

①報告書(案)について ②その他

(5) 医療のイノベーション検討委員会 (第4回) (2月25日)

①検討事項について

#### 4 総合科学技術会議報告

##### 1. 本会議

なし

##### 2. 専門調査会

○知的財産戦略専門調査会 (第38回)

2月22日

(1) 知的財産戦略について

○評価専門調査会 (第70回)

3月3日

(1) 評価システム改革の推進について

(2) その他

##### 3. 総合科学技術会議有識者議員会合

・ 2月21日 \*会長出席

・ 2月28日 \*会長出席

・ 3月 6日 \*会長出席

#### 5 人 事

事務局

企画課長 新: 井上 卓

(平成20年3月1日付)

旧: 植山 克郎

( " )

## 6 逝 去

川田 侃（かわた ただし）元日本学術会議副会長・第二部会員・上智大学名誉教授・東京大学  
名誉教授・日本学士院会員（第13期～第15期）

樋田 哲夫（ひだ てつお）杏林大学医学部眼科学教授・第20期連携会員

## 審 議 事 項

(規則の改正)

- 提案 6 日本学術会議細則の一部を改正する案 P. 1

(国際会議関係)

- 提案 7 G 8 学術会議の開催 P. 6  
提案 8 平成 20 年度代表派遣計画 P. 7  
提案 9 平成 20 年度代表派遣 (平成 20 年 4 月～6 月分) P. 9

(シンポジウム等)

- 提案 10 「医療系薬学の学術と教育：健康社会の実現に向けた先進薬物治療  
の展開を目指して」(シンポジウム) P. 11  
提案 11 「ビスホスホネート治療による顎骨壊死の現状」(シンポジウム) P. 13  
提案 12 「「教育・研究環境のあるべき姿」分子研研究会 (シンポジウム) P. 15  
提案 13 原子力総合シンポジウム 2008 P. 16  
提案 14 「地球温暖化時代に森林木材が果たすべき役割」(シンポジウム) P. 18  
提案 15 「心と身体から教育を考える」(シンポジウム) P. 20  
提案 16 「高校教育における時間と空間認識の統合-世界史未履修問題をどう  
解決するか-」(シンポジウム) P. 22  
提案 17 「Fifty Years after IGY - Modern Technology and Earth and Solar  
Sciences - (IGY から 50 年 - 最新情報技術と地球・太陽科学 - )」 P. 24  
(シンポジウム)

(後援)

- 提案 18 国内会議の後援 P. 26

|     |     |
|-----|-----|
| 6   |     |
| 幹事会 | 5 2 |

## 提 案（総会）

### 日本学術会議細則の一部を改正する案

- 1 提 案 者 浅島副会長（組織運営担当）
- 2 議 案 日本学術会議細則の一部改正について、別紙案のとおり総会に提案すること。（第2条）
- 3 提案理由 会長の互選に当たり、日本学術会議細則の一部を改正する必要がある。

日本学術会議細則（平成１７年１０月４日日本学術会議第１４６回総会決定）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

| 改 正 案                                                                                                                                                                                                                                                            | 現 行                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(会長の互選)</p> <p>第２条 事務局長は、<u>会長の互選のための資料として、互選が行われる総会時における会員（送付時には候補者である者を含む。以下本条において同じ。）</u>に対し、総会に先立ち、次の資料を送付しなければならない。</p> <p><u>（１）互選が行われる総会時における会員の名簿（略歴等を含む。）</u></p> <p><u>（２）その他幹事会が認めた資料</u></p> <p>2 会長の互選は、総会に出席した会員により行う。この場合の投票の方法は、次のとおりとする。</p> | <p>(会長の互選)</p> <p>第２条 会長の互選が行われる総会の５０日前までに、会則第２５条の規定に基づき、幹事会に会長候補者推薦委員会（以下本条において「委員会」という。）を附置する。</p> <p>2 委員会の運営に関する事項は、幹事会が定める。</p> <p>3 会長の互選が行われる総会に先立ち、会員（互選が行われる総会時に会員である者をいう。以下本条において同じ。）による投票を行う。この投票は原則として郵送で行うものとし、投票の方法は、次のとおりとする。</p> <p><u>（１）委員会は、委員会が適当と認める者を９人まで選定し、本人の同意を得た上で、会長候補者の推薦リストに登載し、会員に提示する。</u></p> <p><u>（２）会員は、委員会が前号の選定を行うに当たり、他の２人以上の会員と共同して１人の会員（推薦者を除く。）を委員会に対して推薦することができる。</u></p> <p><u>（３）会員は、推薦リストに掲載された者のうち２人まで投票する。</u></p> <p><u>（４）第１号の規定により、提示される者が５人を超えない場合は、前号の投票を省略することができる。</u></p> <p>4 会長の互選は、総会に出席した会員により行う。この場合の投票の方法は、次のとおりとする。</p> <p><u>（１）委員会は、前項における投票で上位４位以内の者（同位の者が複数となった場合は、年長者をもってこれに充てる。）又は同項第４号の投票を省略した場合に同項第１号に規定される</u></p> |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><u>(1) 投票は、単記無記名による。</u></p> <p><u>(2) 投票者数の過半数の票を得た者を、会長の候補者とする。</u></p> <p><u>(3) 第1回の投票において、過半数を得た者がいないときは、過半数を得る者があるまで投票を行う。</u></p> <p><u>(4) 第3回の投票において、過半数を得た者がいないときは、前2号の規定にかかわらず、当該投票における上位の得票者2人（得票同数の者があるときは、被選挙人に加える。）について決選投票を行い、多数を得た者を会長の候補者とする。この場合において、得票多数の者の得票が同数であるときは、年長者を会長の候補者とする。</u></p> <p><u>3 会長の候補者は、会長の職に就く意思がある場合、会長となる。会長の職に就く意思がない場合は、前項の互選を再度行う。</u></p> <p><u>4 前3項の規定は、日本学術会議法（以下「法」という。）第8条第6項の規定に基づく補欠の会長の互選に準用する。</u></p> | <p><u>会長候補者の推薦リストに登載された者を、会長の候補者として総会に提示する。</u></p> <p><u>(2) 会員は、前号の規定により提示された者のうち1人に投票する。この投票は、単記無記名による。</u></p> <p><u>(3) 投票者数の過半数の票を得た者をもって、会長とする。</u></p> <p><u>(4) 当該投票において、過半数を得た者がいないときは、上位の得票者2人について決選投票を行い、多数を得た者をもって会長とする。ただし、決選投票を行うべき2人及び会長に互選された者を定めるに当たり、得票数が同じときは、年長者をもってこれに充てる。</u></p> <p><u>5 前2項の投票に関し必要な事項は、幹事会が定める。</u></p> <p><u>6 前5項の規定は、日本学術会議法（以下「法」という。）第8条第6項の規定に基づく補欠の会長の互選に準用する。</u></p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 附 則

（施行期日）

第1条 この決定は、決定の日から施行する。

（関係する決定の廃止）

第2条 会長の互選に関する幹事会決定（平成18年4月11日第12回幹事会決定）は、廃止する。

## 第 21 期会長の互選の方法について

### 1 趣旨

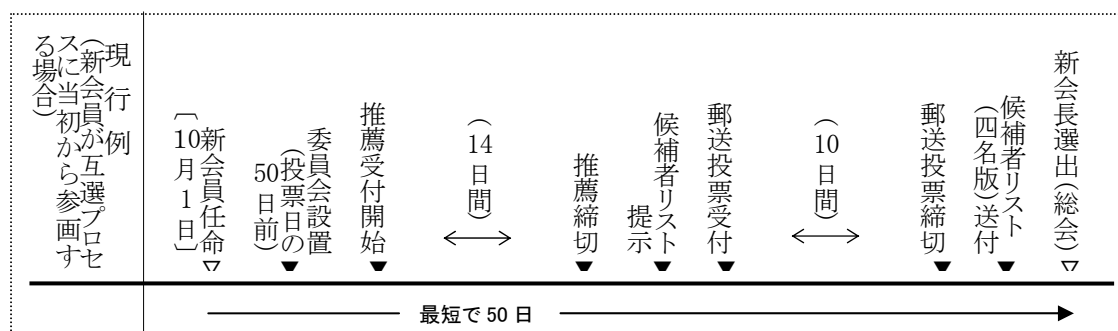
第 20 期第 1 回の総会（平成 17 年 10 月）の会長の互選の際に、会員より、誰に投票すべきかを判断する材料がない等の指摘があったため、平成 18 年 10 月総会での会長の互選に当たっては、総会での投票に先立ち、会長候補者推薦委員会を設置し、会員による推薦と郵送による事前の投票を行った。

この互選プロセスについては、以下の点を含む様々な問題点が提起されている。

#### ① 互選プロセスへの新会員の参画について

- ・ 新会員を会長の互選プロセスのどの段階から参画させるかにより、会長の互選を行う総会の時期が左右される。

（新会員の互選への参画度合いを高める ⇒ 互選を行う総会の開催時期の後ろ倒し  
⇒ 会長不在期間の長期化）



#### ② 本人の同意が得られないと会長候補者の推薦リストに登載できない仕組みについて

- ・ 会長候補者推薦委員会委員に被推薦者が多く出た場合、リスト作成等の委員会運営が現実的に困難となる。
- ・ 委員会委員の職にある者が、会長候補者に推薦された場合に、委員であることを理由として推薦リスト登載を辞退する可能性がある。

## 2 基本的方向性

これらの問題の解決のため、本年 10 月の新会長の互選に向け、以下の方向性が考えられる。

- ・ 会長候補者推薦委員会及び郵送による事前投票等の総会前の互選プロセスを廃止し、総会当日に互選投票<sup>※1</sup>を行う。
- ・ 互選を行う総会に先立ち、第 21 期の会員（新会員候補者及び継続会員）に対して、会長の互選等の参考資料として第 21 期の会員の経歴等を掲載した「経歴等一覧<sup>※2</sup>」を送付。

※1 過半数の票を得た者が出るまで投票を行い、3 回目の投票でも過半数を得る者が出ない場合は、3 回目の投票における上位 2 名で決選投票を行い、多数の票を得た者を会長の候補者とし、その会長の候補者に会長になる意思がある場合にその者が会長となる。意思がない場合は再度同じ投票プロセスを行う。

※2 「経歴等一覧」の作成は、新会員候補者については、選考委員会が会員候補者選考作業で用いた会員候補者情報を基礎として事務局が作成した案を、継続会員については、第 20 期の会長互選の際に配付した「経歴等一覧」を、本人による確認の上、事務局がとりまとめる。〔→本人による確認の際に、「会員としての抱負」等について追加記載してもらう必要がある。〕

## 3 今後の予定

- ・ 平成 20 年 4 月総会において、「日本学術会議細則」の改正
- ・ 細則改正後、幹事会において、必要に応じその他の規程の整備

|     |     |
|-----|-----|
| 7   |     |
| 幹事会 | 5 2 |

## 提 案

### G 8 学術会議の開催

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記会議を下記のとおり開催すること

## 記

- 1 主 催 日本学術会議 (Science Council of Japan)
- 2 開催時期 平成 20 年(2008 年 3 月 17 日(月) ～ 3 月 18 日 (火) (2 日間) )
- 3 開催場所 八芳園 (東京都港区)
- 4 会議計画の概要

#### (1)会議テーマ

- 「気候変動」
- 「Global Health」

#### (2) 日程表 (予定)

|              | 午 前                                 | 午 後                               | 夜           |
|--------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-------------|
| 3 月 16 日 (日) |                                     |                                   | ウェルカムレセプション |
| 17 日 (月)     | オープニング、プレゼンテーション<br>「気候変動」、ディスカッション | プレゼンテーション「Global Health」、ディスカッション | 夕食会         |
| 18 日 (火)     | ディスカッション、クロージング                     |                                   |             |

#### (3)会議使用言語 英語

#### (4)参加予定国

G 8 各国 (カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、ロシア、英国、米国) 及びブラジル、中国、インド、南アフリカ、メキシコ、NASAC (アフリカ科学アカデミーネットワーク)

|     |     |
|-----|-----|
| 8   |     |
| 幹事会 | 5 2 |

## 提 案

### 平成 2 0 年度代表派遣実施計画

- 1 提 案 者      会 長
- 2 議      案      標記について、別紙のとおり決定すること。
- 3 提案理由      「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する  
内規」第 1 8 条第 3 項に基づくものである。

#### <参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣実施計画の作成）

- 第 1 8 条** 国際委員会は、前条第 4 項の決定に基づき、次の各号に掲げる区分に基づき、配分されることとなった旅費の範囲内で、それぞれ様式第 5 に定める実施計画案を作成し、会議開催年度の前年度の 2 月中に会長に提出しなければならない。
- (1) 前条第 1 項第 1 号に係る代表を派遣すべき会議
  - (2) 前条第 1 項第 2 号に係る代表を派遣すべき会議等
  - (3) 前条第 1 項第 3 号に係る代表を派遣すべき会議
- 2 国際委員会は、前項の実施計画案の作成に当たっては、加入国際学術団体の総会を優先しなければならない。
- 3 会長は、前項の規定により提出のあった実施計画案に基づき、様式第 6 に定める代表派遣実施計画（以下「派遣実施計画」という。）を作成して、会議開催年度の前年度の 3 月中に開催される幹事会の承認を得るものとする。

## 平成20年度代表派遣実施計画(案)

## ＜ 第1区分 ＞

| 番号 | 会 議 名                         | 会 期                        | 開催地                                          | 派遣人員 |
|----|-------------------------------|----------------------------|----------------------------------------------|------|
| 1  | 国際経済学協会第15回世界大会               | 2008/6/25 ～<br>2008/6/29   | _____ イスタンブール _____<br>( _____ トルコ _____ )   | 1    |
| 2  | 第17回国際自動制御連盟世界大会              | 2008/7/6 ～<br>2008/7/11    | _____ ソウル _____<br>( _____ 韓国 _____ )        | 1    |
| 3  | 国際光学委員会第21回総会                 | 2008/7/6 ～<br>2008/7/12    | _____ シドニー _____<br>( _____ オーストラリア _____ )  | 1    |
| 4  | 第37回宇宙空間研究委員会科学総会             | 2008/7/13 ～<br>2008/7/20   | _____ モントリオール _____<br>( _____ カナダ _____ )   | 1    |
| 5  | 国際微生物学協会2008大会                | 2008/8/5 ～<br>2008/8/15    | _____ イスタンブール _____<br>( _____ トルコ _____ )   | 1    |
| 6  | 第33回国際地質学会議                   | 2008/8/5 ～<br>2008/8/16    | _____ オスロ _____<br>( _____ ノルウェー _____ )     | 3    |
| 7  | 第29回国際電波科学連合総会                | 2008/8/7 ～<br>2008/8/16    | _____ シカゴ _____<br>( _____ 米国 _____ )        | 3    |
| 8  | 第31回国際地理学会議2008年チュニス大会        | 2008/8/8 ～<br>2008/8/15    | _____ チュニス _____<br>( _____ チュニジア _____ )    | 3    |
| 9  | 国際農業工学会2008年総会                | 2008/8/30 ～<br>2008/9/4    | _____ リオデジャネイロ _____<br>( _____ ブラジル _____ ) | 3    |
| 10 | 第21回CODATA国際会議および第26回CODATA総会 | 2008/10/5 ～<br>2008/10/10  | _____ キエフ _____<br>( _____ ウクライナ _____ )     | 1    |
| 11 | 2008年度海洋研究科学委員会(SCOR)総会       | 2008/10/20 ～<br>2008/10/24 | _____ ウッスホル _____<br>( _____ 米国 _____ )      | 3    |
| 12 | 国際科学会議(ICSU)総会                | 2008/10/23 ～<br>2008/10/26 | _____ マプト _____<br>( _____ モザンビーク _____ )    | 3    |
|    |                               |                            |                                              | 24   |

## ＜ 第2区分 ＞

| 番号 | 会 議 名                          | 会 期                      | 開催地                                               | 派遣人員 |
|----|--------------------------------|--------------------------|---------------------------------------------------|------|
| 1  | 国際社会科学団体連盟(IFSSO)第24回理事会       | 2008/5/18 ～<br>2008/5/19 | _____ バンコク _____<br>( _____ タイ _____ )            | 1    |
| 2  | 国際土壌科学連合中間会議                   | 2008/6/30 ～<br>2008/7/3  | _____ ブリスベン _____<br>( _____ オーストラリア _____ )      | 1    |
| 3  | 第33回国際地質学会議                    | 2008/8/5 ～<br>2008/8/15  | _____ オスロ _____<br>( _____ ノルウェー _____ )          | 1    |
| 4  | 国際理論応用力学理事会及び関連委員会             | 2008/8/24 ～<br>2008/8/30 | _____ アデレード _____<br>( _____ オーストラリア _____ )      | 1    |
| 5  | 世界技術者会議2008                    | 2008/12/2 ～<br>2008/12/8 | _____ ブラジリア _____<br>( _____ ブラジル _____ )         | 1    |
| 6  | 国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP)執行委員会 | 2008/10予定 ～<br>2008/10予定 | _____ オタワ(仮) _____<br>( _____ カナダ _____ )         | 1    |
| 7  | 国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP)執行委員会 | 2009/1予定 ～<br>2009/1予定   | _____ アムステルダム(仮) _____<br>( _____ オランダ(仮) _____ ) | 1    |
| 8  | インターアカデミーカウンシル(IAC)理事会         | 2009/1予定 ～<br>2009/1予定   | _____ アムステルダム(仮) _____<br>( _____ オランダ(仮) _____ ) | 1    |
|    |                                |                          |                                                   | 8    |

## ＜ 特別派遣 ＞

| 番号 | 会 議 名                            | 会 期                      | 開催地                                               | 派遣人員 |
|----|----------------------------------|--------------------------|---------------------------------------------------|------|
| 1  | 地球圏－生物圏国際共同研究計画(IGBP)プログラム会議     | 2008/5/5 ～<br>2008/5/9   | _____ ケープタウン _____<br>( _____ 南アフリカ _____ )       | 1    |
| 2  | 数学教育国際委員会(ICMI)及び数学教育国際会議        | 2008/7/6 ～<br>2008/7/13  | _____ モンテレ _____<br>( _____ メキシコ _____ )          | 1    |
| 3  | 国際人類学・民族会議                       | 2008/7/15 ～<br>2008/7/23 | _____ 昆明 _____<br>( _____ 中国 _____ )              | 1    |
| 4  | 第22回世界哲学大会及び哲学諸学会国際連合(FISP)運営委員会 | 2008/7/29 ～<br>2008/8/5  | _____ ソウル _____<br>( _____ 韓国 _____ )             | 1    |
| 5  | 国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP)執行委員会   | 2008/10予定 ～<br>2008/10予定 | _____ オタワ(仮) _____<br>( _____ カナダ _____ )         | 1    |
| 6  | 国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP)執行委員会   | 2009/1予定 ～<br>2009/1予定   | _____ アムステルダム(仮) _____<br>( _____ オランダ(仮) _____ ) | 1    |
| 7  | インターアカデミーカウンシル(IAC)理事会           | 2009/1予定 ～<br>2009/1予定   | _____ アムステルダム(仮) _____<br>( _____ オランダ(仮) _____ ) | 1    |
| 8  | 第37回地質科学国際研究計画(IGCP)本部理事会        | 2009/2/11 ～<br>2009/2/12 | _____ パリ _____<br>( _____ フランス _____ )            | 1    |
|    |                                  |                          |                                                   | 8    |

|     |    |
|-----|----|
| 9   |    |
| 幹事会 | 52 |

## 提 案

平成20年度代表派遣（平成20年4月～6月分）

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

- 第19条** 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。
- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

| 番号 | 国際会議等                         | 会 期                 |     | 開催地及び用務地                  | 派遣候補者<br>(職名)                          | 備考                     |
|----|-------------------------------|---------------------|-----|---------------------------|----------------------------------------|------------------------|
|    |                               |                     | 計   |                           |                                        |                        |
| 1  | 地球圏－生物圏国際協同研究計画 (IGBP)プログラム会議 | 5月5日<br>～<br>5月9日   | 5 日 | ケープタウン<br>_____<br>南アフリカ  | 近藤 豊<br>東京大学先端科学技術研究センター<br>特任連携会員     | IGBP・WCRP合同分科会<br>特別派遣 |
| 2  | 国際社会科学団体連盟(IFSSO)第24回理事会      | 5月18日<br>～<br>5月19日 | 2 日 | バンコク<br>_____<br>タイ       | 小松 照幸<br>名古屋学院大学経済学部<br>特任連携会員         | AASSREC等分科会<br>第2区分    |
| 3  | 国際経済学協会第15回世界大会               | 6月25日<br>～<br>6月29日 | 5 日 | イスタンブール<br>_____<br>トルコ   | 奥野 正寛<br>東京大学大学院経済学研究科<br>連携会員         | IEA分科会<br>第1区分         |
| 4  | 国際土壌科学連合中間会議                  | 6月30日<br>～<br>7月3日  | 4 日 | ブリスベン<br>_____<br>オーストラリア | 大伏 和之<br>国立大学法人千葉大学大学院園芸学研究科<br>特任連携会員 | IUSS分科会<br>第2区分        |



|     |     |
|-----|-----|
| 1 0 |     |
| 幹事会 | 5 2 |

## 提 案

### シンポジウム

「医療系薬学の学術と教育：健康社会の実現に向けた先進薬物治療の展開を目指して」

1. 提案者 薬学委員会医療系薬学分科会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

## 記

1. 主催：日本学術会議 薬学委員会医療系薬学分科会
2. 共催：日本薬学会
3. 後援（予定）：文部科学省、厚生労働省
4. 日時：平成 20 年 4 月 11 日（金）13：00～15：00
5. 会場：日本学術会議講堂
6. 次第

### （開催趣旨）

薬学教育においては、平成 18 年度より 6 年制の薬剤師教育と薬剤師以外の多様な進路を目指す学生のための 4 年制学部教育を併置する制度となり、現在、引き続きそれぞれを母体とする 5 年制および 4 年制の大学院の設置を目指して大学院における研究・教育のあり方が議論されている。日本学術会議では、これらと関係の深い医療系薬学の学術、教育の将来像や 6 年制学部教育を母体とする 4 年制大学院博士課程の教育理念、目標、あるいは養成する人材像を明確化することを目的として、このたび「医療系薬学の学術と教育：健康社会の実現に向けた先進薬物治療の展開を目指して」をテーマにシンポジウムを企画した。医療系薬学の研究・教育を担う立場から、あるいは要請を目指す人材を受け入れる立場から、各界を代表する講師に講演をいただき議論を深めることにより、薬学の将来像について広く社会に向けて発信できるものと期待される。

### （プログラム）

開催挨拶 13:00～13:10

真弓 忠範(神戸学院大学薬学部教授ライフサイエンスセンター長、日本学術会議会員)

シンポジウム企画の趣旨 13:10～13:25

橋田 充 (京都大学大学院薬学研究科教授、医療系薬学分科会委員長)

医療系薬学の学術と教育 13:25～14:00

山添 康 (東北大学大学院薬学研究科教授)

医療薬学研究・教育の役割とその重要性：臨床薬学の立場より 14:00～14:35

谷川原 祐介 (慶応大学医学部附属病院教授)

休憩 14:35～14:55

医療系薬学研究・教育への期待：製薬企業における研究、臨床開発、生産立場より

14:55～15:30

未定 (日本製薬工業協会に依頼中)

新薬学大学院制度と医療系薬学教育への期待 15:30～16:05

三浦 公嗣 (文部科学省高等教育局医学教育課長)

総合討論 16:05～16:50

閉会あいさつ 16:50～17:00

鶴尾 隆 ((財) 癌研究会・癌化学療法センター所長、日本学術会議会員)

|     |     |
|-----|-----|
| 1 1 |     |
| 幹事会 | 5 2 |

## 提 案

### 公開シンポジウム「ビスホスホネート治療による顎骨壊死の現状」

1. 提案者 歯学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

## 記

1. 主 催 日本学術会議 歯学委員会病態系歯学分科会
2. 日 時 平成20年4月22日（火）13：00～17：00
3. 場 所 日本学術会議 講堂
4. 共 催 （社）日本口腔外科学会
5. 後 援 医歯薬アカデミー、NPO 法人アジア対口腔がん協会（AFOC）
6. 次 第

### （開催趣旨）

ビスホスホネートは骨粗鬆症治療、がんの骨病変などに幅広く用いられており、わが国の対象患者は数百万人に上り、特に高齢者治療に欠かせない薬物といわれております。しかしこの薬物治療により顎骨壊死を生ずる可能性があることがわかり、にわかに大きな社会問題化することが懸念されています。そこでこれに直接関連する内科、整形外科など多岐にわたる専門領域と歯科、口腔外科との間で問題点を共有し、現状を把握して、その治療、予防を模索することを目的とするシンポジウムの開催を企画しました。乖離している医科と歯科の臨床の溝を埋めて共同作業をするよい機会でもあり、学術会議がとりあげるべき喫緊の課題と考えています。

同シンポジウムでは、ビスホスホネート治療と顎骨壊死について講演およびに討論を行い、国民一般の理解を高めることを目的としております。

- （1）コーディネーター 瀬戸 暁一 鶴見大学歯学部長、日本学術会議第二部会員
- （2）演題・演者等

- ・「ビスホスホネート：有用性と顎骨壊死」基調講演  
大阪大学歯学部長、日本学術会議第二部会員

米田 俊之

- ・「わが国における骨粗鬆症の現状と問題点」  
健康科学大学学長 日本学術会議連携会員 折茂 肇
- ・「癌の骨病変に対するビスホスホネート治療と顎骨壊死」  
徳島大学医学部長 松本 俊夫
- ・「ステロイド性骨粗鬆症治療と顎骨壊死との関連」  
近畿大学医学部奈良病院整形外科・リウマチ科教授 宗圓 聰
- ・「ビスホスホネートによる顎骨壊死の診断と予防の提案」  
鶴見大学歯学部歯科放射線科教授 日本学術会議連携会員 小林 馨
- ・「ビスホスホネートによる顎骨壊死の臨床病態と治療ガイドライン」  
兵庫医科大学歯科口腔外科教授 浦出 雅裕

#### 座長

- ・ 埼玉医科大学ゲノム医学研究センター客員教授  
日本学術会議連携会員 日本学士院会員 須田 立雄
- ・ 鶴見大学歯学部長 日本学術会議第二部会員 瀬戸 皖一

- 1) 開会挨拶 (5 分)
- 2) 講演 各演題 30 分 (合計 3 時間)
- 3) ディスカッション 50 分
- 4) 閉会挨拶 (5 分)

#### 7. 分科会の開催

当日、病態系歯学分科会を開催

|     |     |
|-----|-----|
| 1 2 |     |
| 幹事会 | 5 2 |

## 提 案

シンポジウム「教育・研究環境のあるべき姿」分子研研究会」の開催

1. 提案者 化学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

## 記

1. 主 催 日本学術会議化学委員会、分子科学研究所、日本化学会将来構想委員会
2. 日 時 平成20年5月7日(水) 13:00 ～ 18:25
3. 場 所 岡崎コンファレンスセンター(愛知県岡崎市明大寺町)
4. 次 第  
(開催趣旨)

大学院教育戦略・国際化、学術動向・設備、科学政策・評価について各界の意見考えを基に多角的統括的に討議する。特に、課題1「大学院教育の国際化、戦略性、施策」、課題2「化学の学術動向と研究設備」、課題3「科学政策と評価」について集中討議する。

開会あいさつ：中村宏樹(分子科学研究所 所長)

趣旨説明： 岩澤康裕(東京大学 教授、日本学術会議会員)

### I 講 演 (13:05～17:00)

- 1) 野依良治(理化学研究所 理事長、日本学術会議会員)
- 2) 大竹 暁(文部科学省研究振興局基礎基盤研究課長)
- 3) 西本清一(京都大学 副学長)
- 4) 巽 和行(名古屋大学 教授、日本学術会議連携会員)
- 5) 本田成親(ジャーナリスト)
- 6) 小池康博(慶応大学 教授、日本学術会議連携会員)
- 7) 西 信之(分子科学研究所 教授)
- 8) 小倉克之(千葉大学 教授)
- 9) 相澤益男(総合科学技術会議 議員、日本学術会議連携会員)
- 10) 岩瀬公一(文科省 科学技術・学術政策局総括官)
- 11) 北澤宏一(科学技術振興機構 理事長、日本学術会議連携会員)
- 12) 有本建男(JST社会技術研究開発センター長)

### II 課題1－3について自由討議 (17:05～18:25) (参加者全員)

閉会あいさつ：岩澤康裕(東京大学 教授、日本学術会議会員)

|     |     |
|-----|-----|
| 1 3 |     |
| 幹事会 | 5 2 |

## 提 案

### 原子力総合シンポジウム2008の開催

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

## 記

1. 主 催 日本学術会議総合工学委員会
2. 共 催 日本原子力学会ほか 38 学協会
3. 後 援 (財) エネルギー総合工学研究所、原子力委員会、原子力安全委員会、男女共同参画学協会連絡会、(財) 電力中央研究所、(独) 日本原子力研究開発機構、(社) 日本原子力産業協会、(財) 日本原子力文化振興財団、(社) 日本電機工業会
4. 日 時 平成 20 年 5 月 14 日 (水)、15 日 (木)
5. 場 所 日本学術会議講堂

## 6. 議事次第

主調テーマ「グローバル時代をリードする原子力の新潮流」

### 5 月 14 日 (水)

司会：武藤 栄

- 開会の辞(10:00-10:10) (運営委員長・日本学術会議会員) 山地憲治
- 挨拶(10:10-10:20) (日本学術会議会長) 金澤一郎
- (1)基調講演(10:20-11:10) (経済産業大臣) 甘利 明 (予定)
- (2)特別講演(11:10-12:00) (原子力委員会委員長) 近藤駿介

昼 休(12:00～13:00)

### (3)環境問題(13:00～14:45)

モデレータ：山地憲治

- ①LCA(ライフサイクルアセスメント)研究(30 分) (慶應義塾大学) 石谷 久
- ②IPCC(気候変動に関する政府間パネル)(30 分) (国立環境研究所) 西岡秀三
- 討論など(45 分)

休 憩(14 : 45～15 : 00)

(4)教育問題(15:00-17:00)

モデレータ：堀池 寛

①原子力人材育成プログラムと各大学の動向(30 分) (福井大学) 飯井俊行

②COE「世界の持続的発展を支える革新的原子力システム」(30 分)  
(東京大学) 岡 芳明

③CPD (継続教育) (30 分) (科学技術倫理フォーラム) 杉本泰治

④韓国の人材育成(30 分) (KAERI) Dr. Min

5月15日(木)

司会：小川順子

(5)特別講演(10:00-10:50) (原子力安全委員会委員長) 鈴木篤之

(6)招待講演(11:00-11:50) (衆議院議員) 猪口邦子

昼 休(12 : 00～13 : 00)

(7)重電メーカーの動向(13 : 00～15 : 00)

①三菱重工業の取組み(40 分)

(三菱重工業 代表取締役常務執行役員原子力事業本部長) 浦谷良美

②日立製作所の取組み(40 分)

(日立製作所 執行役専務) 齊藤莊藏, または (日立 GE 代表取締役) 羽生正治

③東芝の取組み(40 分) (東芝 執行役専務) 佐々木則夫

休憩(15 : 00～15 : 15)

(8)共催学協会セッション(15:15-16:55)

①レーザー核融合における点火燃焼実現の国際情勢(25 分) (大阪大学)

疇地 宏

②社会と核融合—ポスト ITER の展望と社会との関わり(25 分)

(日本原子力研究開発機構) 松田慎三郎

③計算機シミュレーション技術の最近の進展(25 分) (東京大学) 越塚誠一

④免震構造、制振構造の最新の動向(25 分) (首都大学東京名誉教授)

西川孝夫

○閉会挨拶(16 : 55～17 : 05)

(日本原子力学会会長) 河原 暲

|     |     |
|-----|-----|
| 1 4 |     |
| 幹事会 | 5 2 |

## 提 案

### 公開シンポジウム

「地球温暖化時代に森林木材が果たすべき役割」の開催

- 1 提案者 生産農学委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

## 記

- 1 主 催 日本学術会議生産農学委員会林学分科会
- 2 共 催 森林・木材・環境アカデミー
- 3 後 援 森林学会（依頼中）、日本木材学会、NPO 法人才の木
- 4 日 時 平成20年5月23日（金）13：30～17：30
- 5 場 所 日本学術会議講堂
- 6 分科会 同日、林学分科会を開催予定
- 7 次 第

### （開催趣旨）

地球温暖化の急速な進行が指摘される中で、森林と主として森林からの産物であるバイオマス資源に対する期待が膨らんでいる。このシンポジウムでは、森林の持つ多様な機能を再認識するとともに、二酸化炭素吸収源として、あるいはバイオマス資源として、我々はどれだけの期待を森林に寄せることが可能であるのか、どのような技術開発がそのためには不可欠であるのかなどについて明らかにしたい。

開会挨拶：飯塚堯介（東京家政大学教授、日本学術会議会員、  
日本学術会議林学分科会委員長）  
司 会：永田 信（東京大学大学院教授、日本学術会議連携会員、  
日本学術会議林学分科会幹事）

### I 講 演（13：40～17：00）

- 1) 鈴木 雅一（東京大学大学院教授、日本学術会議連携会員、  
日本学術会議林学分科会幹事）

「森林機能の再認識」

- 2) 天野 正博（早稲田大学教授）

「国内林業の再生が地球温暖化の観点から持つ意義」

- 3) 鮫島 正浩（東京大学大学院教授）

「森林バイオマス利用の現状と問題点」

### II 総合討論とまとめ（17：00～17：30）

飯塚 堯介（東京家政大学教授、日本学術会議会員、



日本学術会議林学分科会委員長)

コメンテーター

永田 信 (東京大学大学院教授、日本学術会議連携会員、  
日本学術会議林学分科会副委員長)  
有馬 孝禮 (宮崎県木材利用技術センター長、日本学術会議連携会員)

閉会挨拶：鈴木 和夫 (森林総合研究所理事長、日本学術会議連携会員、  
日本学術会議林学分科会委員)

#### 参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて必要事項(氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス)  
をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

東京大学大学院農学生命科学研究科 生物材料科学専攻 磯貝 明教授  
(日本学術会議連携会員)

E-mail: aisogai@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

Fax: 03-5841-5269

\*定員(300名)となり次第、締め切りとさせていただきます。

|     |    |
|-----|----|
| 15  |    |
| 幹事会 | 52 |

## 提 案

### シンポジウム「心と身体から教育を考える」の開催

- 1 提案者 心理学・教育学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

## 記

- 1 主 催 日本学術会議 心理学・教育学委員会 心と身体から教育を考える分科会
- 2 後 援 京都大学教育学研究科グローバル COE「心を活かす教育」
- 3 日 時 平成20年6月1日（日）13：30～17：30
- 4 場 所 京都大学文学部新館第三講義室（京都市左京区吉田本町）
- 5 分科会の開催 同日に開催予定
- 6 次 第

### （開催趣旨）

いじめや自殺、青少年犯罪など深刻な状況への社会的対応として、いのちの教育や心のケアの重要性が叫ばれている。だが、「いのち」や「心」といった言葉が一人歩きしてしまい、そもそも脳や心、身体はどんな連関をもつのか？教育可能なのか？善悪の判断など価値観形成にどんな関係があるのか？など、基本的な問いに十分に答えられるだけの基礎的な研究は進んでいるとはいえない。こうした反省の立場にたち、これまで分科会では、哲学、医学、心理学、体育学、教育学の委員による学際的な議論を重ねてきた。本シンポジウムでは、これまでの議論の成果を公開するとともに、心と身体など人間をトータルに捉える立場から教育を捉えなおすための新たなまなざしについて、それぞれの提言を踏まえた発表報告および討議を行う。

開会あいさつ：加賀谷淳子（日本女子体育大学教授、日本学術会議会員）

### I 第一部（13：30～15：00）

司会 鈴木晶子（京都大学教授、日本学術会議会員）

- 1) 入来篤史（理化学研究所、日本学術会議連携会員）
- 2) 松沢哲郎（京都大学教授、日本学術会議会員）
- 3) 鈴木晶子（京都大学教授、日本学術会議会員）

コメンテーター 1) 今井康雄（東京大学教授、日本学術会議連携会員）  
2) 藤原勝紀（京都大学名誉教授）

## Ⅱ 第二部（15：15～16：50）

司会 増渕幸男（上智大学教授、日本学術会議連携会員）

1) 大田直子（首都東京大学教授、日本学術会議連携会員）

2) 宮寺晃夫（つくば学院大学教授、教育哲学会代表理事、日本学術会議連携会員）

3) 辻本雅史（京都大学教授、日本学術会議連携会員）

4) 跡見順子（東京大学名誉教授、日本学術会議連携会員）

コメンテーター 矢野智司（京都大学教授）

全体討議 （16：50～17：20）

全体のまとめ、閉会あいさつ（17：20～17：30）

加賀谷淳子（日本女子体育大学教授、日本学術会議会員）

＊事前申し込みは必要ありません。

|     |    |
|-----|----|
| 16  |    |
| 幹事会 | 52 |

## 提 案

公開シンポジウム「高校教育における時間と空間認識の統合ー世界史未履修問題をどう解決するかー」の開催

- 1 提案者 史学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

## 記

- 1 主 催 日本学術会議 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同  
高校地理歴史科教育に関する分科会
- 2 後 援 日本歴史学協会ほか
- 3 日 時 平成20年6月7日（土）午後2時～6時
- 4 場 所 東京大学教養学部アドミニストレーション棟3階学際交流ホール  
（東京都目黒区駒場3-8-1）
- 5 分科会の開催 同日に開催予定
- 6 次 第

### （開催趣旨）

平成18年秋に判明した高校教育における世界史未履修問題が何故発生したのかを解明した上で、その解決策を日本史、世界史、地理の3教科の差を超えて検討する。

開会あいさつ：小谷汪之（東京都立大学名誉教授、日本学術会議会員史学委員会委員長）

司会：油井大三郎（東京女子大学教授、日本学術会議会員、地域研究委員会委員長、高校地理歴史科教育に関する分科会委員長）

### I 講 演（午後2：00 ～4：00 ）

## 第1部 現状と問題点

- 1) 鳥越泰彦（麻布学園教諭）「世界史未履修問題と世界史必修化」
- 2) 碓井照子（奈良大学教授、日本学術会議会員）「地理歴史科教員の実態と地理的知識低下の問題点」
- 3) 三成美保（摂南大学教授、日本学術会議連携会員）「大学生の歴史素養の実態と今後の課題」

## 第2部 解決策の提案

- 1) 桜井由躬雄（東京大学名誉教授、日本学術会議連携会員）「歴史基礎科目創設の可能性についてー世界史の立場からー」
- 2) 高橋昌明（神戸大学教授、日本学術会議連携会員）「日本史・世界史総合科目についてー日本史の立場からー」
- 3) 山口幸男（群馬大学教授、日本学術会議連携会員）「高校地理歴史科における地理と歴史の関連・融合についてー地理教育の立場からー」

## II 討論など（4：00～6：00）

### コメンテーター

木村茂光（東京学芸大学教授、日本学術会議連携会員）  
小林正人（都立鷺宮高校教諭）  
内堀基光（放送大学教授）

閉会あいさつ：木畑洋一（東京大学教授、日本学術会議連携会員）

＊事前申込みは必要ありません。

|     |     |
|-----|-----|
| 1 7 |     |
| 幹事会 | 5 2 |

## 提 案

国際シンポジウム「Fifty Years after IGY -Modern Technology and Earth and Solar Sciences  
-(IGY から 50 年 - 最新情報技術と地球・太陽科学-)」の開催

1. 提案者 入倉孝次郎（第三部会員）、岡部篤行（第三部会員）、河野 長（第三部会員）、  
平 朝彦（第三部会員）、永原裕子（第三部会員）
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

## 記

1. 主 催 日本学術会議
2. 日 時 平成20年11月10日（月）～ 13日（木）
3. 場 所 独立行政法人産業技術総合研究所 つくば中央 共用講堂  
(茨城県つくば市つくば東 1-1-1)
4. 次 第  
(開催趣旨)

地球科学に画期的進展をもたらした国際地球観測年(IGY, 1957 -1958) から50年が経過した2007-2008 年には、地球および太陽系の科学を更に発展させるための4つの国際プログラム、“IPY”(International Polar Year)、“eGY”(electronic Geophysical Year)、“IYPE”(International Year of Planet Earth)、および“IHY”(International Heliophysical Year)が実施されている。IGY を契機として構築された WDC(World Data Center)システムや、その後設立された CODATA(Committee on Data for Science and Technology)の活動も相俟って、IGY 以降多くの地球科学上の発見や理解の進展がみられた。上記4つの国際プログラムと2つの国際データ組織は、新たな息吹と視点でさらに多くの発見や理解をもたらすべく活動を行っている。

一方、近年急激に発展した超高速インターネット、スーパーコンピュータをはじめとする情報通信技術・計算機技術は地球科学の研究スタイルや研究課題、データの扱いに大きな影響を与えている。また、観測技術の進歩は、往時と比較にならない多種多様で膨大な量の科学データを生み出しつつある。一人の人間が扱える情報量は有限であるこ

とを考えると、データも含めた「情報爆発」に、進歩した情報技術を用いて適切な対処をすることが、今後の地球科学の発展および成果の社会還元において極めて重要である。

前述の6つの国際的活動は独自の目標をもち、それぞれがユニークな活動を行っているが、一方では共通点も多くみられる。当シンポジウムでは、これらに関連する幅広い分野を対象とし、地球科学、情報工学、およびその関連分野の研究者・技術者が一堂に会して、地球内部から太陽にいたる壮大な時間と空間にまたがる多様で膨大な観測情報を、どのように取り扱い知識を深めてきたか、また現在何を目指しているか、最新の成果と今後の研究計画について意見を交換する。そして、IGY以降50年の成果を踏まえた研究のさらなる発展を展望する。

当シンポジウムがこれらの出会いを通じて新たな地球科学創成の契機となるとともに、地球および太陽の科学の重要性を国内外に発信する機会となることを期待している。

|     |     |
|-----|-----|
| 1 8 |     |
| 幹事会 | 5 2 |

## 提 案

### 国内会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

### 記

○後援する

| 名 称 等                                                                                                                                                      | 申 請 者                                    | 審 議<br>付託先 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|------------|
| シンポジウム イノベーション創出と数学研究－諸科学・産業技術の「知の深み」を目指して－<br>① 主催：北海道大学<br>② 期間：平成 20 年 3 月 11 日<br>③ 場所：京王プラザホテル札幌 B1 プラザホール                                            | 国立大学法人<br>北海道大学大<br>学院理学研究<br>院長         | 第三部        |
| Calestous Juma 教授 特別講演会～科学技術が支えるグローバル社会の持続性～<br>① 主催：東京大学 21 世紀 COE プログラム、東京大学サステイナビリティ学連携研究機構、東京大学国際連携本部<br>② 期間：平成 20 年 3 月 18 日<br>③ 場所：東京大学本郷キャンパス安田講堂 | 東京大学 21 世<br>紀 COE プログ<br>ラム拠点リー<br>ダー   | 第二部<br>第三部 |
| 日本土壌微生物学会シンポジウム<br>① 主催：日本土壌微生物学会<br>② 期間：平成 20 年 6 月 13 日～14 日<br>③ 場所：静岡大学                                                                               | 日本土壌微生<br>物学会会長                          | 第二部        |
| 「第 20 回国際生物学オリンピック」<br>① 主催：国際生物学オリンピック 2009 組織委員会、国立大学法人筑波大学、財団法人日本科学技術振興財団<br>② 期間：平成 21 年 7 月 12 日～19 日<br>③ 場所：茨城県つくば市                                 | 国際生物学オ<br>リ ン ピ ッ ク<br>2009 組織委員<br>会委員長 | 第二部        |



## 参考 1

### ○日本学術会議における今後の予定

#### (1) 幹事会

- |           |       |       |        |                |
|-----------|-------|-------|--------|----------------|
| ① 第53回幹事会 | 平成20年 | 4月    | 7日 (月) | 総会終了後          |
| ② 第54回幹事会 | 平成20年 | 4月    | 8日 (火) | <u>12:30から</u> |
| ③ 第55回幹事会 | 平成20年 | 4月    | 9日 (水) | 委員会終了後         |
| ④ 第56回幹事会 | 平成20年 | 5月22日 | (木)    | 14:00から        |
| ⑤ 第57回幹事会 | 平成20年 | 6月26日 | (木)    | 14:00から        |
| ⑥ 第58回幹事会 | 平成20年 | 7月24日 | (木)    | 14:00から        |
| ⑦ 第59回幹事会 | 平成20年 | 8月28日 | (木)    | 14:00から        |
| ⑧ 第60回幹事会 | 平成20年 | 9月    | 4日 (木) | 14:00から        |
| ⑨ 第61回幹事会 | 平成20年 | 9月18日 | (木)    | 14:00から        |

#### (2) 総 会

- |                   |                  |                  |           |                 |
|-------------------|------------------|------------------|-----------|-----------------|
| ① 平成20年           | 4月               | 7日 (月) から        | 9日 (水) まで | [春の定例総会]        |
| ② 平成20年           | 7月14日 (月)        |                  |           | [臨時総会]          |
| ③ <u>平成20年10月</u> | <u>1日 (水) から</u> | <u>3日 (金) まで</u> |           | <u>[秋の定例総会]</u> |

## サイエンスカフェ案内

| 開催日                     | 地域 | 開催場所                                                                                                                                                                                                                    | 講師                                                                | テーマ                                        | お問い合わせ先                                                                                             |
|-------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月8日(土)<br>14:00～15:30  | 東京 | 愛知芸術文化センター10階<br>ガーデニングレストラン<br>名古屋市中区東桜一丁目13番2号<br><a href="http://www.aac.pref.aichi.jp/frame.html?bunjo/jishyu/2007/science-cafe.pdf">http://www.aac.pref.aichi.jp/frame.html?bunjo/jishyu/2007/science-cafe.pdf</a> | 仙田 満<br>(株)環境デザイン研究所会長 日本学術会議会員)                                  | 「こどもと建築」                                   | 愛知芸術センター内<br>愛知県文化情報センター・<br>サイエンスカフェ係<br>TEL(052)971-5511<内線721><br>E-Mail:bunjo@aac.pref.aichi.jp |
| 3月21日(金)<br>18:30～20:30 | 東京 | サロンド富山房 Folio<br>千代田区神田神保町1-3<br>富山房ビルB1<br><a href="http://www.fuzambo-intl.com/folio.html">http://www.fuzambo-intl.com/folio.html</a>                                                                                 | 小山富士雄<br>(東京大学環境安全本部特任教員)<br>室伏きみ子<br>(お茶の水女子大学教授 日本学術会議<br>連携会員) | 「リスクとリスクコミュニケーション」                         | サロンド富山房 Folio<br>TEL:03-3291-2578<br>FAX:03-3219-4866<br>E-Mail:p-m@fuzambo-intl.com                |
| 3月28日(金)<br>18:30～20:00 | 東京 | 文部科学省情報ひろばラウンジ<br>千代田区霞が関3-2-2<br><a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/soshiki2/map.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/soshiki2/map.htm</a>                                                                             | 毛利 衛<br>(日本科学未来館館長 日本学術会議<br>員)                                   | 「宇宙ステーションのもたらすもの」                          | 申込みは科学技術週間HPから<br><a href="http://stw.mext.go.jp/">http://stw.mext.go.jp/</a>                       |
| 3月28日(金)<br>18:30～20:00 | 高山 | ベストウエスタンホテル高山<br>岐阜県高山市花里町6丁目6番地<br><a href="http://www.bestwestern.co.jp/takayama/index.html">http://www.bestwestern.co.jp/takayama/index.html</a>                                                                     | 西野仁雄<br>(名古屋国立大学学長 日本学術会議<br>連携会員)                                | 「イチローの脳を科学するー心のもち方に<br>よって脳を創り変えていくことができる」 | ベストウエスタンホテル高山<br>TEL:0577-37-2000                                                                   |